

「品川区立小中一貫校品川学園の 現状に関する一考察」

～施設一体型小中一貫校開校から4年目を迎えて～

品川区立小中一貫校品川学園
校長 新井 陽子

1 品川学園の概要

開校

平成23年 4月1日

児童生徒数の変化

※ 5組は特別支援学級 左数字1～6年、右数字7～9年

| 年度 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 7年 | 8年 | 9年 | 5組 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|------|------|
| 23 | 116 | 71 | 78 | 68 | 57 | 53 | 106 | 76 | 110 | 7+8 | 750 |
| 24 | 130 | 119 | 65 | 81 | 70 | 59 | 116 | 108 | 77 | 14+8 | 847 |
| 25 | 119 | 132 | 114 | 68 | 82 | 70 | 134 | 118 | 108 | 15+8 | 968 |
| 26 | 130 | 119 | 130 | 112 | 72 | 83 | 118 | 135 | 118 | 13+7 | 1037 |

学級数の変化

平成23年度（開校1年目） 24学級（特別支援学級2学級含む）

平成26年度（開校4年目） 34学級（特別支援学級3学級含む）

2 品川区の小中一貫教育

小中一貫教育の流れ

平成17年度 品川区小中一貫教育要領（教育課程編成の基準）
平成18年度～ 区内全域の小中学校で小中一貫教育を実施
平成18年度～ 小中一貫教育特区（構造改革特別区域法）の認定
平成21年度～ 文部科学省「教育課程特例校」の指定

施設一体型小中一貫校の開校

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 平成18年4月開校 | 日野学園 |
| 平成19年4月開校 | 伊藤学園 |
| 平成20年4月開校 | 八潮学園 |
| 平成22年4月開校 | 荏原平塚学園 |
| 平成23年4月開校 | 品川学園 |
| 平成25年4月開校 | 豊葉の杜学園 |
| ※平成26年度 | 小学校31校、中学校9校 施設一体型小中一貫校 6校 |

3 開校2年目の品川学園校長になって

課題

- ・校務センターでは、「小学校では」「中学校では」の声が
- ・組織はあるが、組織を動かすマニュアルは小規模校のまま
- ・第6学年に活躍の場がない。「品川小学校でよかったのに」
- ・第8学年の「中だるみ」は、あまり変わらず



コンセプト

<第1期：平成24年度・25年度>

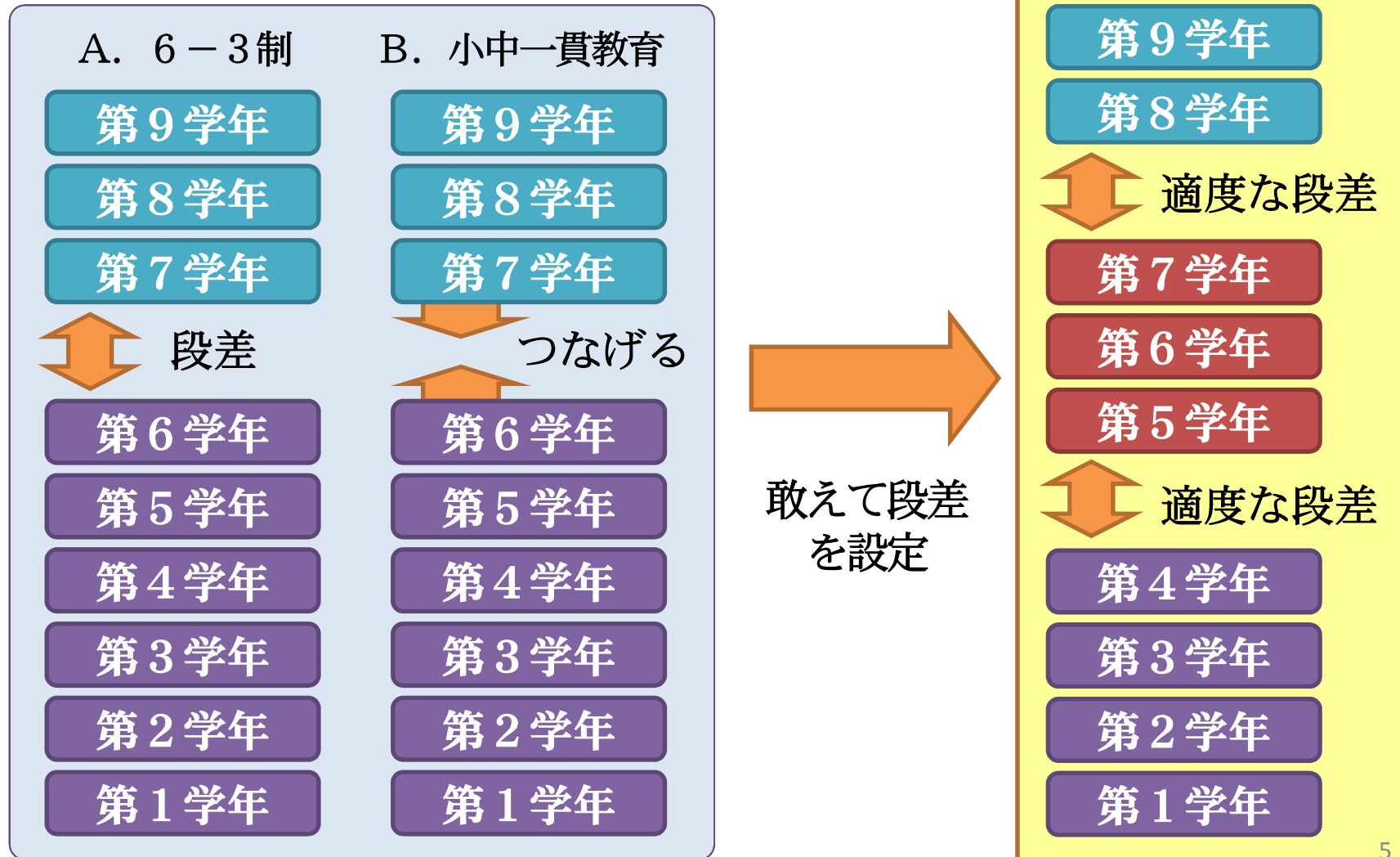
『小学校でも、中学校でもない小中一貫教育の創造』
～ 教員の意識改革 教育内容の開発 ～

4

「連続性」と「段差」

新たな問い

連続性も大切だが、段差を設定した方が良いのではないか？



5 一貫校のよさと「段差」

経営理念

～ 自分の『過去』と『未来』が見える学校 ～

- 過去（1年生）は、成長のあかし。
- 未来（9年生）は、あこがれ。
そのために、人権感覚、人権意識を高める。
「思考力」「基礎力」「実践力」を育てる。
自分の健康は自分で守る態度を育てる。



コンセプト

＜第2期：平成26年度・27年度・28年度＞

『「4－3－2」制のよさを最大限に生かした教育活動の創造』

6-1 各ブロックの明確な目標と段差の設定

第1学年～第4学年ブロック

- 基礎・基本の定着 ～寺子屋的指導期～
 - ・ 45分授業
 - ・ 学級担任制
 - ・ 第4学年児童のリーダーシップ



基礎・基本の定着を図るために、学級担任によるスモールステップによる指導と1時間ごとの評価を基本としている。



たてわり班活動

6-2 各ブロックの明確な目標と段差の設定

第5学年～第7学年ブロック

- 基礎・基本の徹底 ～ 道場的指導期 ～
 - ・ 50分授業
 - ・ 教科担任制
 - ・ 第7学年生徒のリーダーシップ

基礎・基本の徹底を図るために、学級集団の学び合いを中心とした指導と單元ごとの評価を基本としている。



児童・生徒会活動（第5学年～第7学年） ※委員会活動含む

6-3 各ブロックの明確な目標と段差の設定

第8学年・第9学年ブロック

- 個性の伸長 ～ 私塾的指導期 ～
- ・ 50分授業
 - ・ 教科担任制
 - ・ 将来設計と自学自習



最高ブロックの生徒として、自治的な活動を行い、生徒自らの課題を克服する自学自習への指導と評価を基本とする。



連合自治会活動（第8学年・第9学年）

7-1 9年間の連続性

市民科を核としたカリキュラムの設定

9年間の年間指導計画、単元指導計画の作成

- ・ 市民科の4本の柱
 - 自己実現
 - 他者理解
 - 崇高な生き方
 - 社会性・将来性の育成
- ・ 9年間の系統的な指導が必要な要素
 - 思考・判断
 - コミュニケーション
 - 生命尊重
 - 共生（社会貢献）
- ・ 9年間で育てる「資質・能力」の具体化

7-2 9年間の連続性

ブロックごとの徹底した指導

1～4学年

- 社会性の基礎を育てていく時期
- ・ 基本的生活習慣の徹底
- ・ 学級、学年集団の形成

5～7学年

- 様々な集団の中で、よりよい人間関係を築いていく時期
- ・ 第5、6学年－学級編成替
- ・ 第7学年－複数小学校卒業生による学級編成

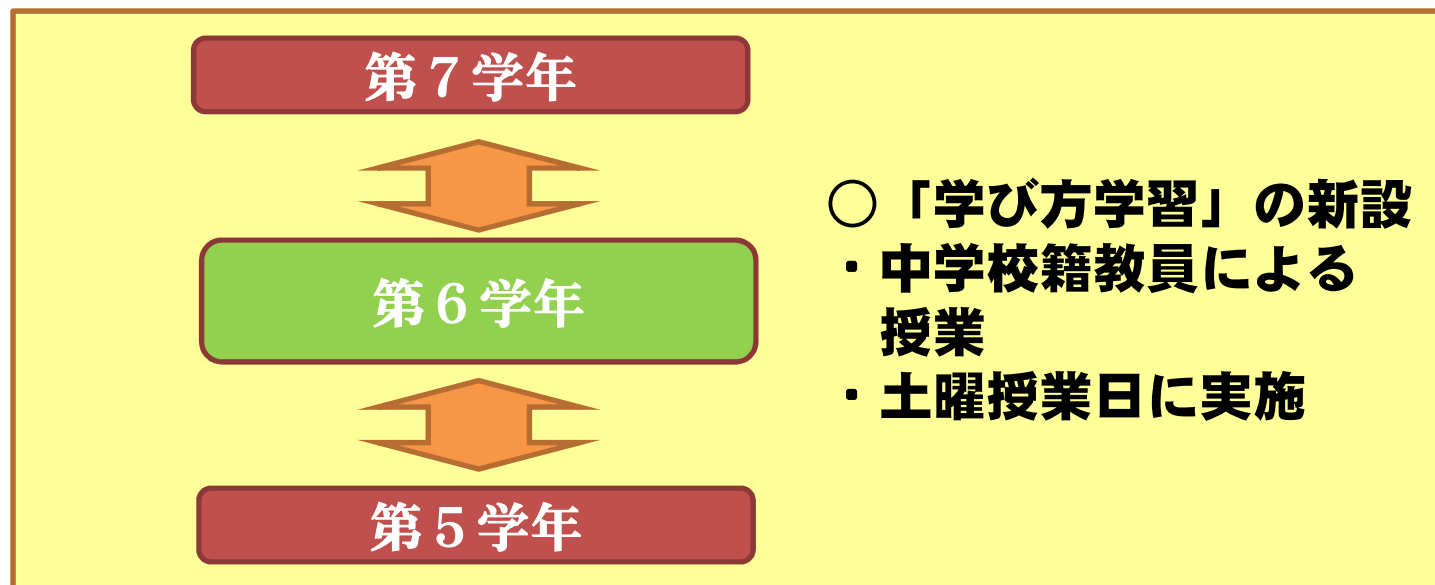
8・9学年


- 社会人となる素養を身に付けていく時期
- ・ 地域行事への主体的な参加
- ・ 時と場に応じた言動
- ・ 品川学園の目標となる姿

8 小中一貫教育は「第5～7学年」がポイント

『小学校でも、中学校でもない』

それが、5年生・6年生・7年生
学年ごとに適度な段差－超えたい目標、超えられる目標





「品川区立小中一貫校品川学園の 現状に関する一考察」

～施設一体型小中一貫校開校から4年目を迎えて～

品川区立小中一貫校品川学園
校長 新井 陽子